

草の根技術協力（パートナー型）事業概要表

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	セルビア共和国
2. 事業名	パンチェボ市における産学官民の協働による環境改善推進事業
3. 事業の背景と必要性	パンチェボ市は首都ベオグラードに隣接し、化学工業地区を有していることから、ユーゴスラビア紛争の際、1999年にNATOによる空爆を受け、有害化学物質による土壌・地下水汚染が発生した。その後、UNEP（国連環境計画）等によって一定のレベルまで環境改善が進められたが、未だ化学工業地区の土壌・地下水汚染が残っている。さらに、古い廃棄物処分場からの汚染、コウノトリが飛来する自然公園の再生等が課題となっており、パンチェボ市は環境改善により公害の町のイメージを払拭することを目指している。
4. プロジェクト目標	パンチェボ市において、産学官民の協働によって“自立的”に環境改善に取り組むための体制が構築される。
5. 対象地域及び管轄する領事館	パンチェボ市、在セルビア日本国大使館
6. 受益者層（ターゲットグループ）	パンチェボ市環境部・パンチェボ市衛生公社・パンチェボ市緑公社職員、ベオグラード大学化学部教官、セルビア商工会議所南バナート支部会員事業者、高校教師、NGOスタッフ、パンチェボ市民
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 産学官民各主体のリーダーが養成される。 環境リスクを協議する産学官民連携体制が強化される。 市民が主体的に環境保全活動を行うようになる。 産学官民の誰でも環境改善に関する情報にアクセスできるようになる。 <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1-1 コアリーダーが産学官民リーダー会議の設置・運営する。1-2 本邦専門家がコアリーダーへのTOT研修を実施する。1-3 本邦専門家がコアリーダー及びリーダー育成のための本邦研修を行う。1-4 コアリーダーが新たなリーダー候補に研修を行う。1-5 本邦専門家が育成されたリーダーのモニタリングを行う。 2-1 パンチェボ市、ベオグラード大学が、産学官民のメンバーで構成されたワーキンググループを設置・運営する。2-2 石油化学工場、衛生公社が石油化学工場や廃棄物処分場の土壌等分析調査を行う。2-3 緑公社が自然公園の土壌等分析調査と汚泥対策調査を行う。2-4 緑公社が自然公園及びその周辺の生物調査を行う。2-5 パンチェボ市、ベオグラード大学が各種調査を取りまとめ、ワーキンググループに提出する。2-6 ワーキンググループがパンチェボ市への環境リスク等の説明会を開催する。 3-1 パンチェボ市が環境保全啓発のためのシンポジウムを開催する。3-2 石油化学工場が市民を対象とした工場見学を開催する。3-3 NGOが自然公園周辺の生物観察等を含むエコツアーを開催する。 4-1 ベオグラード大学がプロジェクトのホームページを開設する。4-2 パンチェボ市がプロジェクトのホームページを管理運営する。
8. 実施期間	（西暦）2020年1月～2025年1月（5年0ヵ月）
9. 事業費概算額	52,442千円
10. 事業の実施体制	<日本側>公益財団法人ひょうご環境創造協会、<セルビア側>パンチェボ市環境部、ベオグラード大学化学部
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	公益財団法人 ひょうご環境創造協会
2. 活動内容	環境の保全と創造に資することを目的に、地球規模から地域レベルまで幅広い環境問題に対し、県民、NPO、事業者、行政とともに一元的・総合的に取り組み、次世代に継承する「環境適合型社会」の実現を目指す。